

# 君津地域水稻情報 「あぜみち第2報」

平成25年6月18日 君津農業事務所 改良普及課  
 電話 0438-23-0299 FAX 0438-23-6698  
 ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

## ★「ふさおとめ」「ふさこがね」穂肥は6月末から ★ 昨年イネクロカメムシが発生したほ場では今年も要注意

### 1 君津地域の生育概況

関東甲信地方は5月29日に平年よりも10日早い梅雨入りを迎えましたが、その後の天候は良好で、生育は順調に進んでいます。幼穂形成期はほぼ平年並みで、生育が順調な地域では早生が幼穂形成期を迎えています。

6月13日発表の病害虫発生予報では、イネクロカメムシの予想発生量が、「やや多」とされており、現地でも被害が多く見られています。

現在の生育状況は、次のとおりです。

- ① 葉令（生育）の進みは、平年並みです。
- ② 草丈は平年並み～やや高くなっています。
- ③ 茎数はやや多くなっています。
- ④ 葉色は平年並みです。

### 2 県調査ほの調査結果（6月14日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (/株)	茎数 (/㎡)	単葉葉色 (SPAD)	幼穂形成期 (H25は予測)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	25	4/18	11.0	51.8	44.9	687	47.3	6/18
	平年	4/15	10.7	49.0	41.9	621	42.8	6/19
	平年比	+3	+0.3	+2.8	+3.0	+66	+4.5	-1
ふさこがね (君津市)	25	4/22	10.5	44.0	36.6	692	38.4	6/19
	平年	4/19	9.8	44.0	30.7	597	43.4	6/23
	平年比	+3	+0.7	0	+5.9	+95	-5.0	-4
コシヒカリ (君津市)	25	4/24	9.2	52.2	37.1	683	39.6	6/27
	平年	4/20	9.4	48.8	30.6	588	38.4	6/26
	平年比	+4	-0.2	+3.4	+6.5	+95	+1.2	+1
コシヒカリ (君津市) (一発肥料)	25	5/2	9.5	44.1	35.4	538	40.3	6/29
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	25	4/19	9.3	53.9	38.2	657	40.2	6/27
	平年	4/21	9.3	49.2	33.4	591	40.2	6/27
	平年比	-2	0	+4.7	+4.8	+66	0	0

※ 幼穂形成期は、幼穂長1mmとなった時で、出穂の25日前にあたります。

※ 平年値は過去5か年（2008～2012年）平均値。ただし、君津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は25年から調査を始めたため、24年及び平年値はなし。

### 3 これからの管理のポイント

#### ① 品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	冷害危険期予測
ふさおとめ	4月20日	6月18日	6月28日～
ふさこがね	4月20日	6月19日	6月29日～
コシヒカリ	4月20日	6月27日	7月7日～
	5月1日	6月29日	7月9日～

#### ② 「中干し」を確実にいきましょう

6月に畝間がふさがり過繁茂になっている場合は、最終的に1本1本の茎が細くなり、葉への日当たりも悪くなるため、倒伏しやすくなり、また、玄米が小粒になったり、乳白米が発生したりする恐れがあります。

「コシヒカリ」は幼穂形成期まで中干しを徹底し、無駄な分げつを抑えましょう。

(水管理の方法については、第1報を参照してください)

#### ③ 「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥

「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥の適期は6月末になります。下表を参考に、生育が適正範囲内であれば幼穂長1cmの時(出穂18日前)にチッソ成分で3kg/10aを標準に施用します。

生育が過繁茂となっている場合は、「ふさおとめ」では施用時期は遅らせずに、量を減らして施用します。穂肥が遅れると玄米に含まれるタンパク質が増えて食味が悪くなる傾向がありますので、幼穂長を確認して、必ず適期に施用するようにしてください。

なお、「ふさこがね」の穂肥施用時の適正な葉色は他の品種に比べて濃いので、適正範囲であれば穂肥を基準どおりに施用します。

#### 幼穂形成期(出穂25日前・幼穂長1mm)の標準的な水稻の姿

品種	幼穂形成期の目安	草丈 cm	茎数 /株	茎数 /㎡	群落葉色	穂肥適期の目安
ふさおとめ	6/18	53	31本	570本	4.0	6/25
ふさこがね	6/19	62	26	470	5.0	6/26
コシヒカリ	6/27	65	28	510	3.8	7/4

※株当たり茎数は坪60株植えの場合。幼穂形成期は4/20植えの現段階のおよその目安。

#### ④ イネクロカメムシに注意!

イネクロカメムシは君津市小系地区～富津市を中心に、近年、発生・被害が増えており、今年も「やや多」という予報となっています。普通のカメムシと違って斑点米を作ることはありませんが、水稻の茎を吸汁します。吸汁されると茎数が減少したり、不稔粒が増加したりするほか、白穂の発生原因にもなります。

雑草地や落葉の下などで越冬した成虫が5月中旬～6月に水田に飛来し、6月下旬には卵を産んで増えます。幼虫が発生する頃には水稻が大きくなり、動力噴霧器や無人ヘリ等の薬剤がかかりにくくなるため、防除は成虫が飛来する今が効果的です。田の畦際から発生するので、その周辺の株元を良く見回り、発生していたら早めに防除しましょう。

#### 【主な防除薬剤】

Ⅱカ粉剤 2、Ⅱカ乳剤、Ⅲカ粉剤 3DL、Ⅲカ乳剤、Ⅳカ粒剤、Ⅳカ豆つぶ

※ 次号は「7月2日頃」発行予定